



営農支援情報

「秋野菜」の管理作業とポイント

暑さのピークを迎えるこの時期の高温対策が特に重要です。施設・露地栽培ともにこまめな灌水管管理や通路散水等を行い草勢の維持に努めてください。

【雨よけホウレンソウ】

曇雨天後の強い日差しにより葉がしおれたり、葉焼けが生じたりする場合があります。特に生育初期の地際部は高温障害を受けやすいので、遮光資材等を活用し地温の上昇を抑えます。また、土壌が乾燥すると、ホウレンソウの生育が停滞するため、播種前の灌水はムラなく十分に行います。

発芽まで3～5日を要しますが、この間に種子のある深さまでの過乾、過湿により発芽不良のリスクが高くなるので気温や土壌の乾燥状態に合わせた土壌の水管理が重要です。発芽直後から本葉4枚頃までは、立枯病や徒長を防ぐため基本的に灌水を行いませんが、砂質土壌や乾燥傾向の場合は若干量行います。収穫7～10日前頃からは、品質低下を防ぎ、葉色の向上と葉の厚みを持たせるために灌水は行いません。



【秋冬どりキャベツ】

秋冬どりキャベツの定植は一番暑い高温乾燥時に行われるので生育抑制・遅延を招きやすくなります。



灌水施設のあるところでは、夕方か朝の気温の低い時間帯に積極的に灌水します。特にセル成型苗の場合は、定植後の乾燥時に灌水効果が高まります。

1回目の追肥は定植後15～20日頃に畝の肩に施し、2回目は結球始め頃に畝間に施し軽く中耕・培土します。追肥量は生育状況を見てチッソ、カリ成分で1回当たり4～5kg/10a程度とします。

【秋冬ネギ】

10月から収穫が始まる秋冬ネギは、出荷規格の軟白長が30cmになるので、8月以降の土寄せが重要な作業となります。畝を平らにする削り込みの終了後、20日前後の間隔で土寄せを行い、最後の土寄せは収穫予定の25～35日前に行います。収穫期間が長くなると葉鞘部の伸長が進み、緑白部がボケになり品質が低下するので、最終土寄せは広範囲を一斉に行わず、日毎の収穫量に合わせて行います。最終の土寄せ以外は、葉身部と葉鞘部の分岐点を超えないように分岐点から10cm程下まで行い、最後は葉身と葉鞘部の分岐点まで行います。



ご紹介

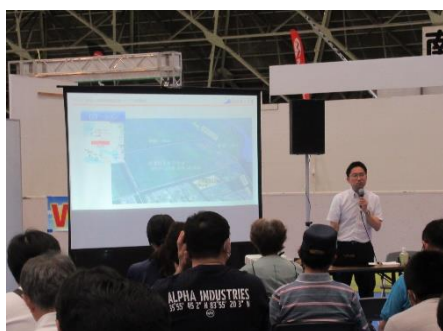
「第36回秋田県JA農業機械大展示会」を開催！

JA全農あきたとJAグループ秋田は6月18日・19日の2日間、秋田県立スケート場を会場に「第36回秋田県JA農業機械大展示会」を開催しました。

今年は、約30のメーカー各社が最新農業機械などおよそ2,500点を展示。期間中は約2,500人の来場者でにぎわいました。



会場には、自動操舵（そうだ）機能の付いたトラクターや田植機、農業用ドローンなどICT技術を活用した各メーカー最新の農業機械が展示されました。また、実際に試乗して体験できる実演コーナーやRTK（高精度位置測位）システム紹介コーナーも設けられ、省力化・効率化に貢献するスマート農業技術を紹介したほか、肥料や農薬、農業資材の展示や、営農管理システム「Z-GIS」の紹介も行いました。



期間中は、スマート農業情報を発信する「稲作高温・乾燥対策講演会」や、「スマート農業講演会」を開催。スマート農業情報を活用した土づくり戦略や、新たな農業・農村と持続可能な食料システムなどをテーマに多くの来場者が参加し理解を深めていました。

秋田県本部担当者は「農業生産者数が減っている中で、スマート農業の推進や情報発信により営農活動に貢献していきたい」と話しました。



JA全農あきた公式
ホームページはコチラ！

公式インスタ
秋田の農業応援団！

営農支援部 営農支援課 ☎018-880-1011



JA_ZENNOH_AKITA

美人を育てる
秋田米です 🌾



BIJINAKITAMAI



Zennoh-akita agriculture+reform
Za・あぐりふおーむ

JA全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふおーむ
第66号 令和7年8月5日発行

編集・発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒011-0901秋田市寺内字大小路207-24 018-880-1011